JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町９番７号
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
編集：JAAGA事務局
印刷：アロー印刷株式会社
ホームページ：http://www.jaaga.jp/

「つばさ会/JAAGA訪米団」AFA総会参加等報告
TSUBASA-KAI and JAAGA members participate in AFA general meeting

1　全般

平成 30 年 9 月 12 日から 21 日までの間、岩崎会長を団長とする 11 名の JAAGA 代表団による 20 回目となる訪米を実施した。今年はハワイとワシントン D.C.のみの訪問だったが、ハワイでは、例年の PACAF(Pacific Air Forces)、INDO-PACOM(U.S.Indo-Pacific Command)への訪問に APCSS(Asia Pacific Center for Security Studies)の研修を加え、D.C.では、例年以上に多くの米空軍高官等と意見交換できた。これらの意見交換を通じて、JAAGA の活動に対する認識が米空軍内に浸透しつつあることが確認できた。D.C.では、防衛駐在官（鈴木 1 等空佐、進藤 2 等空佐）の奥様方が 20 回目の訪米を祝して作ってくれたケーキをプレゼントされるというサプライズもあった。更に杉山晋輔駐米大使からは公邸にご招待頂いた。

Homemade memorial cake for 20th anniversary of JAAGA visit to the U.S. is surprisingly presented by wives of defense attaché

ハワイ到着日の 12 日には、トロピカルストーム・オリビアが、更にワシントン D.C.到着日の 15 日にはハリケーン・フローレンスがそれぞれ訪問地に接近中であったため訪問が危惧されたが、幸運にもほぼ計画通りに訪問できた。

ハワイでは、PACAF 連絡幹部の倉地 1 佐を始め杉本 2 佐、山田 2 佐、藤島 3 佐、INDO-PACOM 連絡幹部の雨宮 1 海佐、そして PACAF からもストームの影響が危惧される中で、輸送支援をはじめ多大なご支援を頂くとともに、D.C.では、業務多忙の中、防衛駐在官の鈴木 1 佐、進藤 2 佐から絶大なご支援を頂いた。また出発前には、航空幕僚監部からブリーフィングを受けると共に便宜供与依頼のための調整等支援して頂いた。お陰様で充実した成果の多い訪米となり、この場を借りて、ご支援頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

2　ハワイ

(1) PACAF 主催の夕食会

到着した 12 日の夕刻には、太平洋空軍司令官 Brown 大将(Gen.Charles Q. Brown Jr. Commander of PACAF)主催の夕食会を催して頂いた。夕食会の前の歓談では、Brown 大将が自ら経歴等を披露され、また、マティス国防長官とは中央軍時代に一緒に勤務し、いつでも電話できる関係であり非常に信頼できる上司であるとの紹介があった。

Enjoying private conversations with Gen. Brown before dinner

夕食会では、Brown 大将から「アジア・太平洋諸国は

Relaxed faces of Gen. Brown and JAAGA members after dinner

～　ＪＡＡＧＡだより55 号 目 次　～

JAAGA 訪米団 AFA 総会参加等報告 ・・・・1
空自部隊 RFA に参加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
米太平洋空軍司令官の交代 ・・・・・・・・・・・・・8
米軍横田基地司令官の交代 ・・・・・・・・・・・・・8
第 5 空軍副司令官の交代 ・・・・・・・・・・・・・・・9
米軍三沢基地司令官の交代 ・・・・・・・・・・・・・9
米軍嘉手納基地 18MSG 司令官の交代 ・・10
空自 F-2/F-15 と米軍 B-52 の共同訓練 ・・10
三沢基地日米基地司令の相互体験搭乗 ・・11
在日米軍司令官那覇救難隊に勲章授与 ・・12
日米相互特技訓練を激励支援 ・・・・・・・・・・13
日米相互特技訓練の進展 ・・・・・・・・・・・・・・13
日米下士官防衛交流の進展（硫黄島） ・・・・18
米軍人の「ねぶた祭り」参加支援 ・・・・・・・・・19
スペシャルオリンピックス支援・・・・・・・・・・・・20
平成 30 年度 JAAGA 横田基地研修・・・・・22
SPORTEX'18A を開催・・・・・・・・・・・・・・・・25
三沢基地エアフォース・ボール 2018 参加 ・27
2018 横田基地日米友好祭の開催 ・・・・・・・28
米空軍将校航空自衛隊勤務だより ・・・・・・・29
会員募集・寄稿募集案内・編集後記 ・・・・・・31

様々な関係があるが、軍同士の信頼関係は強い。また、多国間演習は、参加国の文化や価値観、更には行動基準の違いを理解する絶好の機会である」等の発言もあり、和やかな雰囲気の中にも活発な意見交換の場となった。

(2) PACAF 訪問

翌日の 13 日は、PACAF を訪問しコマンドブリーフィングを受けた。概要は以下のとおり。

ア） PACAF の担当地域は他の地域統合軍の 3 倍の広大な地域であり、当地域は米国の持つ 7 つの防衛条約の内 5 つがあり軍事的にも重要な地域。

イ） 南シナ海の安定と北朝鮮への圧力及びロシアの東海岸への爆撃部隊の展開等を注視している。

Exchanging of views between President Iwasaki and Gen. Brown

ウ） 太平洋空軍としては、機敏な戦闘行動、マルチドメインオペレーション、攻撃を凌いで反撃する強靭性を重視。そのため年に 40 回の多国間演習も実施。

At the Court Yard of Hero in PACAF facility

(3) 613th Air Operation Center 研修

AOC は PACAF の指揮下にあり、平時は約 400 人体制、Phase が上がると州軍や予備軍から増強され、800 ～ 1200 人規模となる。担当は攻撃、防衛、法律顧問等に分かれ、その他機動や後方支援等の担当がいる。モニター画面では艦船の航行状況や Weather 等を常時監視し、24 時間態勢で監視対象の区分等を実施している。

(4) INDO-PACOM 訪問

ア） J-3 Rear Adm. Steve Koehler 表敬懇談

J-3 から、「インド太平洋軍は日本を始めオーストラリアやカナダとも協力して任務を実施している。特に海自の護衛艦「かが」と米海軍航空母艦「USS Ronald Reagan, CVN-76)」が共同巡航を行ったのは大きな成果」との発言があった。意見交換の概要は以下のとおり。

At the entrance lobby in the Indo-Pacific Command building

National Security Strategy では 2 つの大国競争相手（中国、ロシア）と 3 つの脅威（北朝鮮、イラン、テロ）が示されており、ロシアの脅威を十分認識している。5 つの脅威全部がインド太平洋地域に存在し、限られた資源の中で優先順位をつけて時間と資源を配分している。

イ） インド太平洋軍司令官 Adm. Philip S. Davidson (Commander of INDO-PACOM)表敬懇談

最初に司令官から北海道胆振地震で亡くなられた方々に対するお悔やみがあった。次に、「インド太平洋の 3 つの課題として、北朝鮮に対する国連制裁の確実な執行、中国による南シナ海の軍事化、南太平洋のオセアニア問題があり、各国がお互いに補完して協力することが重要である。日米の軍の信頼関係が FOIP（Free and Open Indo-Pacific Strategy）にとって critical と認識」との意見があった。更に東シナ海、オホーツク海、台湾等に関する課題についても幅広く意見交換できた。

(5) Joint Operation Center Tour

JOC は 2 シフト制で 4 days On/Off 勤務。5 人のスタッフが 24 時間配置につき、COP（共通作戦状況図 Common Operational Picture）を監視。カバーするエリアは世界の 52%に相当し、AIS（自動船舶識別装置：Automatic Identification System）情報を基に商船や、空母機動群の位置と行動等をモニター。更に HA/DR は常に実施しており、フィリピンの台風等もコントロール、即ち監視し対応している。

(6) 総領事公邸での夕食会

13 日夕刻、伊藤康一ホノルル総領事から夕食会に招いて頂いた。伊藤総領事は中国での勤務が長く、中国のアリババの Big Data や情報統制がある中での中国版 You Tube の存在、習近平の汚職撲滅に対する国民の支持等について説明があった。

(7) Asia Pacific Center for Security Studies 研修

14 日午前は APCSS を研修。APCSS 所長（Rear Adm. (Ret.) Pete Gumataotao)の出迎えを受け、会議

Dinner at the residence of Mr. and Mrs. Koichi Ito, Consul General of Japan in Honolulu

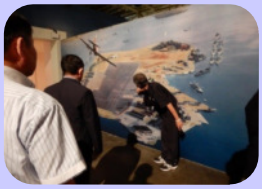
Study tour at APCSS with Director Gumataotao, wearing yellow strap

室まで案内される間、Daniel K. Inoue 上院議員の APCSS 設立・運営への貢献の紹介等があった。
その後、3 人のインストラクターによるブリーフィングが以下の内容で行われた。

- Lt. Col. McDonald － NSS の分析と比較
- Dr. Chou（韓国籍）－南北首脳会談と今後の見通し
- Dr. Vuving －南シナ海の現状

(8) 史跡等研修

14 日午後は、最初に太平洋航空博物館を研修した。この博物館には、真珠湾攻撃を生き延びた第二次世界大戦時代の 2 つの格納庫と、管制塔があり、格納庫とそれを取り囲む駐機場には、弾痕、銃撃の跡、爆弾でできた凹みなど、攻撃の傷跡が今なお残っており、格納庫内には、B-25 や零戦が展示されている。



At Pearl Harbor Aviation Museum

Behind Ehime Maru Memorial

At Makiki Japanese Cemetery with Hawaii Meiji Kai members

次に、えひめ丸慰霊碑公園に行き慰霊碑を参拝した。公園では、えひめ丸慰霊碑管理協会、ハワイ日系人連合協会及びハワイ明治会の方々にご案内頂き、細部にわたり説明を受けた。

続いて、マキキ日本人墓地を訪問。ここは海外で最古の日系人集合墓地で、1927 年にホノルルの日系人と在留邦人の有志で建立され、一般の墓地の他旧日本海軍墓地、明治元年渡航者の碑及び官約移民「寄せ墓」という三つの日米関係史的に重要な慰霊碑が建立されている。

3 ワシントン D.C.

(1) 空自派遣幹部との懇談

15 日にワシントン D.C.に入り、夕刻には吉田正紀氏（防大 23 期、元佐世保地方総監）宅で、防衛駐在官（鈴木 1 佐、進藤 2 佐）や小黒 1 佐（USAF 連絡官）、佐々木原 2 佐（F35 連絡官）、佐藤 2 佐（ジョージワシントン大学研修生）等の空自派遣幹部と、奥様の心のこもった手料理に舌鼓を打ちながら様々な課題等について意見交換できた。場を設けて頂いた吉田氏と奥様には心から感謝申し上げたい。

Home party at the residence of Mr. and Mrs. Masanori Yoshida, Vice Admiral (Ret.), with Koku-Jieitai officers stationing near Washington D.C.

(2) JAAGA 名誉会員との交流

16 日の夕刻には、JAAGA の名誉会員として永くご支援頂いているエバハート元大将宅でのカクテルパーティーにご招待頂いた。エバハート元大将には永く JAAGA 訪米団を支援して頂いており、団長から日本の酒（百年の孤独、獺祭）をプレゼントした。

JAAGA 主催の夕食会では、最初に岩崎団長から、JAAGA の訪米はエバハート様ご夫妻を中心とする皆様の心温まるサポートによって成り立っており、感謝を申し上げる旨の挨拶があり、次にエバハート元大将からは、JAAGA の訪米は日米空軍の緊密な関係に計り知れない貢献をしている旨のお言葉、更にシュワルツ元統合参謀本部議長からも、JAAGA 訪米団と名誉会員の深い絆が、航

President Iwasaki presents bottles of Japanese sake to Mr. Eberhart, Gen. (Ret.) and a honorable member of JAAGA, at the Cocktail Party

President Iwasaki gives an address at the JAAGA hosting dinner at the Army and Navy Club

Japan-America Air Force Goodwill friends, with wives in the front line, create warm atmosphere after the Cocktail Party at Gen. (Ret.) Eberhart residence

空自衛隊と米空軍の強力な関係の維持に大きく寄与していることは明白とのお言葉を頂いた。

夕食会には米側から17名の参加を頂き、終始和やかな雰囲気の中で、それぞれに旧交を温めることができた。

(3) 政府や空軍等の高官への表敬、意見交換

ア) A-3 Lt. Gen. Mark D. Kelly との意見交換

Kelly 中将から「米空軍は F-22 をイラクやシリアでは実戦に投入している。F-22 の利点は、敵の防空網をくぐって情報収集し、目標、脅威、EW 等の情報を他の機種に提供できること」との説明があった。また、アジアの空軍基地に対しては、抗堪化、地下化あるいは SAM による防空等が必要との意見もあった。

Exchanging views with Lt. Gen. Kelly, A-3

イ) SAF/IA Mis Heidi H. Grant との意見交換

冒頭、岩崎団長から、米空軍の F-35 教育訓練支援への感謝と F-2 後継機について現在検討中であること、更には大綱見直し、中期防作成に取り組んでおり、引き続き緊密な調整が必要である旨の発言があった。その他、主な意見交換は以下のとおり。

○F-2 後継機は、日本が独自に改修・改善を重ねられることが重要。

○宇宙における同盟国・有志国との連携について推進する必要がある。

Exchanging views with Ms. Grant, SAF/IA (Secretary of the Air Force, International Affairs)

○日米協力に関して、情報保護・保障と Funding の 2 つの課題への取り組みが重要である。

ウ) 空軍参謀本部情報部副部長 Maj. Gen. James R. Marrs との意見交換

情報収集及び共有や今後の情報分野の体制整備等について特に、グローバル・ホークは統合運用のため、各軍種の情報共有システム構築が課題であること、また、日米間の適切なインフォメーション・シェアリングは、現在推進している IMD (Intelligence Mission Data) において重要であること、情報セクションの体制整備としては、ネットワーク・センシング・プラットフォームの構築が重要との意見があった。

エ) J-3 Vice Adm. Michael M. Gilday との意見交換

Gilday 中将から、「北朝鮮に対する制裁圧力作戦では、護衛艦等による油の移送監視や洋上監視航空機による警戒監視のパターンを作り上げ、多くの国が参加して情報共有を図っている」との紹介があった。その後の意見交換の概要は以下のとおり。

○中国は常に空白 (Vacuum) に侵入してくるため、日米

Exchange of views with Vice Adm. Gilday, J-3

共同で対応していくことが重要。
○日本では 2019 年にラグビーのワールドカップ、2020 年にはオリンピックも控えており、サイバー対策が重要。
○米軍とロシア軍の軍同士の関係は重要。偶発的な事故防止のためにも交流が必要。

オ）米空軍宇宙軍司令官 Gen. John W. Raymond (Commander of AFSPC)との意見交換

当初、岩崎団長から昇任の早さに対する驚きとともに祝意を表すると、司令官からは「日本での経験が飛躍に繋がった。東日本大震災の津波や地震対処、JSF での日米共同等の実戦でどのように事態が推移し、共同作業が機能するのか経験できたことが大きい。感謝している」とのコメントがあり、意見交換が始まった。主な内容は以下のとおり。
○日米関係は極めて重要であり、宇宙においても強いパートナーシップが必要。米軍は 2020 年迄に独立した宇宙軍を作る。
○SSA（宇宙状況把握：Space Situational Awareness）は現在、JAXA を通じて情報交換しているが、自衛隊との情報共有も必要。

Courtesy call on and exchange of views with Gen. Raymond, Commander of AFSPC (Air Force Space Command)

カ）ミッチェル研究所所長 Lt. Gen.（Ret.）David Deptula との意見交換

Deptula 所長との意見交換では、兵器の近代化、特に F-2 後継に関連する事が中心となった。概要は以下のとおり。
○空自の兵器の近代化は、米空軍の近代化と並行して実施できる。
○F-2 後継機は戦闘機、爆撃機、偵察機、攻撃機等のマルチ戦闘機という新しい運用コンセプトが必要。
○F-2 後継については、独自に改修・改善できることが必要。

キ）A-8X Maj. Gen. David A. Krumm 及び A-8P Maj. Gen. David S. Nahom との意見交換

Maj. Gen. Krumm は元第 5 空軍副司令官であり、空自の能力向上や予算・調達についてざっくばらんに意見交換できた。概要は以下のとおり。
○空自は最新の航空機の他に、サイバーや宇宙、EW などやるべきことは多い。更に少子化への対策も必要なので、予算が必要。
○リクルートの問題は日米共通。空軍はパイロット不足が深刻でエアラインとの協定を締結。

Exchanging views with A-8, Maj. Gen. Krumm (front) and Maj. Gen. Nahom (back)

○実機パイロットの不足により、RPV のパイロットを戻す動きや、RPV 操縦者に下士官を採用する可能性もある。

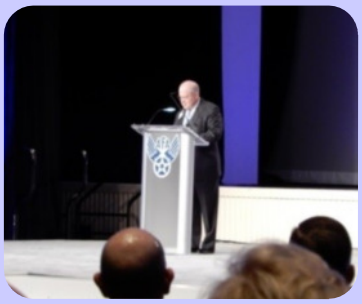
4 AFA Air Space & Cyber Conference 2018 への参加

（1）AFA 会長 F. Whitten Peters 開会挨拶

「今回が 71 回目の開催。今年は、Bezos Amazon 会長等の講演もあり、若い空軍兵士の参加は教育の良い機会。AFA はサイバーペトリオット競技会、その他幅広い活動を空軍支援のために行っており、今後も尽力していく所存である」旨を開会式で挨拶。
（https://www.dvidshub.net/video/626290/2018-air-space- cyber- conference- opening- and- award-ceremonies）

（2）AWARD Ceremony

この表彰では、現役軍人のみならずシビリアン、家族も授与される。現役軍人においては、最優秀 ISR 部隊、最優秀飛行隊、Air National Guard 優秀部隊、人命救助等、多方面にわたり評価され、表彰される。これらが米空軍の伝統を継承し、空軍のプライドや士気を高揚させる上で有効かつ不可欠であると痛感した。



Opening remarks by Mr. Peters, Chairman of the Board, AFA at the 71st AFA's annual ASC (Air, Space & Cyber Conference)

（3）米国副大統領 Mike Pence 特別講演

プログラムには予定されてなかったが、ペンス副大統領がサプライズ・スピーチを実施した。AFA で副大統領がスピーチするのは初めてのことであり、参加者達は驚きと共に万雷の拍手をしていた。要旨は以下のとおり。
○トランプ政権は国防

Vice President Pence attends AFA's ASC and makes a surprise speech for the first time by Vice President

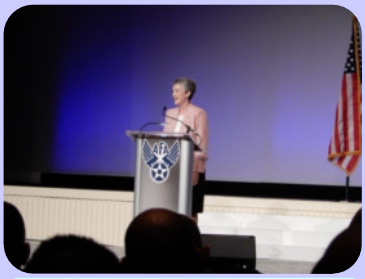
へ真摯にコミットメントしており予算も大幅に増額している。
○48 機の F-35 調達、B-21 プログラムへの 満額予算、A-10 後継の軽攻撃機開発を進める。世界で最も優れた装備品を提供することを約束する。
○AFA 及び空軍創立 71 周年に祝意を表する。
参照：https://www.afa.org/events/Conference/recordings/pence）

(4) 国防副長官 Patrick M. Shanahan 講演

要旨は以下のとおり。
○NDS の 3 本の柱は、Lethal Force の建設、同盟強化及び軍事の改革。
○マティス長官が 60 カ国を訪問していることが同盟重視の証拠。パートナーを引きつける努力が必要。
○装備の近代化を推進。敵の SAM を突破し PGM で攻撃できる装備など、現在の選択が 10 年先の米空軍のあり方を決定。AI、サイバーセキュリティ、宇宙の重要性にも言及。長官から司令官まで宇宙軍の設立について議論している。（参照：https://www.afa.org/events/Conference/recordings/shanahan）

(5) 空軍長官 Heather Wilson 講演

空軍長官は、エアパワーの重要性とともに、新たな脅威に対応するために空軍力の強化が必要と強調していた。


Ms. Wilson, Secretary of the Air Force, during her remarks, stresses the importance of air power and the need to strengthen Air Force

要旨は以下のとおり。
○WWI で、ビリーミッチェルが最初の航空機による攻撃でエアパワーを証明し、アーノルド将軍が空軍建設に尽力した。最初の空軍長官に就任したのが WWI で戦闘機の実力を証明したスチュアート・サイミントン氏。以来、エアパワーは進化を続けた。

ロシアや中国の軍事動向や 2050 年迄に最強の軍隊を建設するとの発言から、National Defense Strategy を遂行するには、飛行隊を 386 個隊へ増加する必要がある。
○空軍の規則の半分は陳腐化している。最適な業務要領を追求する。
○宇宙は War Fighter Mission であり、米空軍が支配する。2020 年の予算要求書には新たな Space Department の設立が要求される。
○人が重要。パイロットを訓練するバーチャル・シミュレーターを開発導入する。More Lethal Air Force を作るために皆で力を合わせる。今後 386 個の飛行隊建設に向けて。
（参照：https://www.afa.org/events/Conference/recordings/wilson）

(6) 米空軍参謀長 Gen. Goldfein 講演

ゴールドフィン参謀長は、マルチ・ドメインにおけるシンクロと、空軍力の展開の重要性 について強調していた。要旨は以下のとおり。
○1995 年からのイラク監視作戦で EAF（Expeditionary Air Force）のコンセプトを作り、1998 年空軍長官が正式に表明。EAF を再度、進化させる必要がある。
○空軍は素早い行動や意思決定が本領であり、柔軟性がカギ。次世代の EAF は分散する小規模基地で活動し、MAJCOM に reach back する。

Gen. Goldfein, Air Force Chief of Staff, delivers his speech and insists on the importance of air power deployment

（参照：https://www.afa.org/events/Conference/recordings/goldfein）

5 大使公邸でのカクテルパーティー

19 日の夕刻に、大使公邸でのカクテルパーティーにご招待を頂いた。杉山大使は JAAGA について既にご存じで、公邸玄関でのお出迎えを受けた。早速、公邸内を案内して頂くと、公邸内には外国の方々にも日本文化を楽しんで頂けるように日本庭園や茶室まで整備されており驚いた。応接室でのカクテルをいただきながら、最近の米国や北朝鮮情勢についてもお話を伺うことができた。

6 在ワシントン D.C.日本企業の方々との懇談

在ワシントン D.C.の日本企業の方々 15 名（14 社）と懇親会を実施した。この懇親会は数年前から続いており、JAAGA としても、現地での状況を理解する上で有意義な懇談である。 （石野理事長記）

Cocktail at Ambassador's residence

Garden in Ambassador's residence

With Mr. Shinsuke Sugiyama, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan to the United States of America

空自部隊レッド・フラッグ・アラスカに参加

“ RED FLAG-Alaska ”, 290 Koku-Jieitai members & 10 aircrafts participate

2018 年度 レッドフラッグ・アラスカ訓練（RED FLAG-Alaska 18-2）は、6 月 8 日（金）～ 23 日（土）の 16 日間実施された。空自からは、人員約 290 名（航空総隊約 180 名、航空支援集団約 110 名）、航空機 F-15J/DJ×6、E-767×1、C-130H×2、KC-767×1 が参加した。

訓練内容は、ほぼ例年通りで、防空戦闘訓練、空中給油訓練、戦術空輸訓練を、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ・リチャードソン統合基地並びに同周辺空域等で実施した。今回の戦闘機部隊の主体は第 6 航空団であり、また、日米以外ではシンガポール空軍が参加した。　　（渡部理事記）

Training scenes of RFA 18-2
at Eielson Air Force Base and Joint Base Elmendorf-Richardson
June 8 - 23, 2018

Photos by Public Affairs, ASO

米太平洋空軍司令官の交代
Gen. Brown assumes Command of PACAF on July 26

7 月 26 日、空軍参謀副長 Gen. Stephen W. Wilson, AF Vice Chief の執行により第 35 代太平洋空軍司令官にブラウン大将（Gen.Charles. Q. Brown Jr.）が就任した。

米太平洋空軍は、アフリカの東海岸～米国の西海岸、北極から南極までの広大なエリアを管轄し、約 46,000 人の空軍兵士を指揮統率する。交代式に立ち会った米国インド・太平洋地域軍司令官（Adm. Phil Davidson, U.S. Indo-Pacific Command Commander）は、ブラウン司令官の歓迎スピーチを述べた。

前任のオショネシー大将（Gen. Terrence J. O'Shaughnessy）は、5 月 20 日に North American Aerospace Defense Command & U. S. Northern Command の司令官に就任した。ブラウン大将就任までの間は在日米軍司令官兼第5空軍司令官マルチネス中将が代行した。　（米太平洋空軍 HP 参照、早坂理事記）

Gen. Charles Q. Brown Jr.
New Commander of Pacific Air Forces (PACAF)

米軍横田基地第374空輸航空団司令官の交代
The 374th Airlift Wing welcomes Col. Jones as New Commander on July 20

7 月 20 日（金）、横田基地において第 5 空軍副司令官ドージャー准将（Brg. Gen. Todd A. Dozier）の執行により、第 374 空輸航空団司令官（兼横田基地司令）交代式（374th AW Change of Command）が行われ、モス大佐（Col. Kenneth E. Moss, outgoing Commander）からジョーンズ大佐（Col. Otis C. Jones, incoming Commander）に指揮権が継承された。

来賓として周辺自治体、協力団体、官公署、北関東防衛局の長等、及び航空自衛隊から航空総隊司令官前原弘昭空将（当時）、航空支援集団司令官山田真史空将をはじめ、総隊主要幹部、近隣部隊長、横田基地司令齋藤拓也1等空佐等が招待され、JAAGA からは小野田副会長、石野理事長、谷井、阪東、藤田、川口の各理事及び石川会員が参加し、荘厳な式典を見守った。

格納庫内の会場には、日米両国国旗が掲げられたステージを正面にして、来賓席、第 374 空輸航空団の隊列、基地所在部隊等隊員席が順に配置され、サイドには基地軽音楽バンドが控え、開け放たれた先の駐機場には、米空軍、空自、陸自の航空機が展示されていた。

式典は、10 時から開始、司令官一行入場、国旗掲揚、国歌斉唱（隊員による独唱）、祈り、ドージャー准将挨拶、表彰（モス大佐）、離任するモス大佐の挨拶（部隊から最後の敬礼を受礼）、指揮権委譲（指揮官旗がモス大佐の手からドージャー准将を経てジョーンズ大佐の手に）、着任する新司令官ジョーンズ大佐の挨拶（最初の敬礼を受礼、その後、指揮官機の C-130 にジョーンズ大佐の名前を刻印）空軍歌斉唱、司令官一行退場の次第に沿って、済々と実施された。

Col. Otis C. Jones
New Commander of the 374 th Airlift Wing and Yokota AB

離任にあたりモス大佐からは、侍ウォリアーである隊員とともに日本の地での任務に付けたことを、また空自を含む近隣の方々の協力と温かいご支援を受けることができ、無事に任を終えられることへの謝辞が述べられた。

新司令官ジョーンズ大佐からは、太平洋空軍最高の輸送航空団の指揮官として勤務できる栄誉を励みとして今後の任に当たる旨の決意が表明された。

式典後、ジョーンズ大佐主催のレセプションが将校クラブで実施され、JAAGA 参列者も短時間ではあったが、ご家族を交えて歓談を行い、良き新たなパートナーシップのスタートを切ることが出来た。　（川口理事記）

第5空軍副司令官着任
5th AF welcomes Brig. Gen. Dozier as Vice Commander on June 17

6 月 17 日、ドージャー准将（Brig. Gen. Todd A. Dozier）は、第 5 空軍副司令官兼太平洋空軍統合航空調整所長として着任した。第5空軍司令部は、日本の防衛と地域の 緊急事態に対し統合及び日米共同作戦を計画、実行。更には、在日米軍司令部、米陸軍、米海軍、米海兵隊、日本国自衛隊及びその他の日本政府機関との日米相互運用性の向上を図る役割を有すると共に、我が国に駐留する米空軍部隊の業務管理を任務とする。

ドージャー准将は、飛行中隊長、航空遠征群及び戦闘航空団司令官として、「プロバイド・コンフォート作戦」、「ノーザン・ウォッチ作戦」、「サザン・ウォッチ作戦」、「ノーブル・イーグル作戦」、「イラクの自由作戦」、「生来の決意作戦」等に参加すると共に、EF-111A、F-16C/D のパイロットして作戦従事経験を含み、数々の戦闘作戦への参加経験がある。参謀としての勤務経歴は、航空戦闘軍団司令部、国防長官府、第 12 空軍司令部等で勤務し、前職は、太平洋空軍司令部において司令官補佐官を務めた。

（第 5 空軍 HP 参照、早坂理事記）

Brig. Gen. Todd A. Dozier
New Vice Commander of the 5th Air Force and Director of PACAF Joint Air Component Coordination Element

米軍三沢基地第35戦闘航空団司令官の交代
The 35th Fighter Wing holds a change of command on July 16

7 月 16 日、三沢基地において第 5 空軍副司令官ドージャー准将(Brig. Gen. Todd A. Dozier)の執行により、第 35 戦闘航空団司令官の交代式が行われ、第 66 代司令官にストルーヴ大佐(Col. Kristopher W. Struve)が就任した。

ドージャー副司令官は、前任のジョーブ大佐(Col. R. Scott Jobe)は「三沢市を中心としたコミュニティとの友好親善を図ると共に部隊の精強化に大いに寄与した」と述べ、彼の功績を讃えた。また、新任のストルーヴ大佐に対しては、「大いなる活躍を確信する」と述べた。

ジョーブ大佐は、国防総省プログラム統合部門のチーフ(Chief of the Program Integration Div., Pentagon)に就任する。

新司令官に着任したストルーヴ大佐は、前勤務は韓国群山空軍基地の第 8 運用作戦群司令官であった。同大佐は、日本での勤務は今回で 4 回目であり、その内三沢基地での勤務は 3 回目になる。なお、本交代式において北部航空音楽隊が式典間の音楽演奏を担当した。

（米軍三沢基地 HP 参照、早坂理事記）

Col. Kristopher W. Struve
New Commander of the 35th Fighter Wing and Misawa AB

Northern Air Defense Force Band provides support to USAF and plays an important role at the Change of Command ceremony

作:宇山佳男 OB

米軍嘉手納基地第18任務支援群司令官の交代
The 18th Mission Support Group welcomes New Commander on June 29

6 月 29 日(金)、嘉手納基地において第 18 任務支援群司令官交代式が行われた。

交代式は、来賓歓迎及び紹介、関係者入場、カラーガード隊による演舞、日米両国国家斉唱、祈祷に引き続き第 18 航空団司令官ケース・A・カニングハム准将(Brig. Gen. Case A. Cunningham, Commander of the 18th Wing, Kadena Air Base) による退任司令官及び新任司令官についての紹介等を含めた挨拶の後、退任するポール・オルダム大佐(Col. Paul M. Oldham)にメダルが授与された。

退任司令官挨拶の後、指揮官旗が離任されるオルダム大佐から第 18 航空団司令官へ、そして新司令官のサング・T・ドーン大佐(Col. Thang T. Doan, New Commander of 18th Mission Support Group)へと手渡され、指揮権が委譲された。最後に新任司令官の挨拶があり、セレモニーは終了した。

交代式の後、新任司令官夫妻主催のレセプションが催された。

交代式には、周辺自治体の首長はじめ協力団体の長が招待され、空自からは第9航空団基地業務群司令 興儀 孝 1 等空佐が参列した。JAAGA からは丸野礼治沖縄支部長が出席した。 (丸野沖縄支部長記)

Col. Thang T. Doan, New Commander of the 18th Mission Support Group, Kadena Air Base

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

空自 F-2、F-15 と米軍 B-52 との共同訓練
Koku-Jieitai & USAF conduct joint training above The Japan Sea and East China Sea

航空自衛隊は、9 月 27 日(木)、日米共同対処能力及び部隊の戦術技量の向上を目的とし 東シナ海及び日本海空域において米空軍との共同訓練(編隊航法)を実施した。参加部隊は、第 2 航空団(千歳)F-15×4 機、第 6 航空団(小松)F-15×4 機、第 8 航空団(築城)F-2×4 機及び第 9 航空団(那覇)F-15×4 機、米空軍は第 96 遠征爆撃飛行隊(グアム)B-52×1 機であった。

(空自報道発表抜粋、早坂理事記)

(↑)B-52 (96th Expeditionary Bomb Squadron, Guam) and F-15 (2nd Air Wing, Chitose AB) above the Japan Sea
(→)B-52 and F-2 (8th Air Wing, Tsuiki AB) above the East China Sea

Photos by Public Affairs, ASO

三沢基地日米両航空団司令の相互体験搭乗

3rd Air Wing & 35 Figther Wing commanders integrate in bilateral familiarization flights

三沢基地において日米両基地司令の体験搭乗が行われた。

6 月 22 日(金)、第 35 戦闘航空団司令官ジョーブ大佐(Col.R. Scott Jobe,the 35th Fighter Wing commander)が第 3 航空団所属 F-2B の搭乗訓練を行った。同司令官は、第 3 飛行隊長相澤 2 佐の後席に搭乗し、三沢東方空域において第 3 航空団の飛行訓練の状況を視察した。一方、7 月 2 日(月)、第 3 航空団司令鮫島空将補(Maj. Gen. Kenichi Samejima, the 3rd Air Wing commander)が第 35 戦闘航空団所属 F-16 の搭乗訓練を行った。第 35 戦闘航空団司令官自らが前席で操縦桿を握り、後席の第 3 航空団司令と共に、北海道西方空域において第 35 戦闘航空団の飛行訓練の状況を視察した。

今回の相互体験搭乗は、ジョーブ大佐から当初 F-16 への搭乗が鮫島司令に打診され、それに応じて鮫島司令から相互搭乗を提案し実現したものである。三沢基地では平成 28 年度にも日米両航空団司令が相互搭乗を実施しており、それ以前においてもそれほど頻度は高くはないものの、団司令のみならず飛行隊操縦者等の搭乗実績があった。鮫島司令個人的には、米国での委託教育で T-38 の搭乗経験はあったが、米軍戦闘機への搭乗は今回が初めてであった。空自全体においても、過去には共同訓練等の機会において、希にではあるが米軍戦闘機への搭乗実績はあったとのことである。米軍人の空自機への搭乗については、規則上団司令の権限で実施できるものの、空自隊員の米軍機への搭乗に係る米軍の制約については定かではないが、別に航空幕僚長の承認が必要である。

鮫島司令によると、F-2 に搭乗した際、ジョーブ大佐が最も驚いていたのは、キャノピーの美しさをはじめとして、航空機がきめ細やかな配慮の下に維持されていることであり、空自整備員の質の高さを絶賛し、かつ、搭乗機の操縦者である相澤 2 佐及び僚機パイロットの上空判断についても高く評価していたそうである。

Strong ties between Maj. Gen. Samejima, the 3rd AW commander, and Col. Jobe, the 35th FW commander, after a familiarization flight at Misawa Air Base on 2 Jul.

他方、鮫島司令は、「米軍の訓練シナリオが実戦に即した内容であり、今後の練成訓練内容や訓練環境の検討に参考となったことが一番の収穫であった」と述べた。

鮫島司令は、今回の体験搭乗を通じ、「私が前回三沢勤務をした約 20 年前と比べると、日米空軍間の共同は質量両面おいて格段に進展している。両指揮官の相互搭乗は、日米間の緊密な連携と強固なパートナーシップを象徴するとの認識を双方で共有し実施した。今後も継続されることを願っている」と述べ、指揮官相互の体験搭乗の意義及び日米防衛協力の更なる向上に資するメリットを強調した。

(三沢基地 HP 参照、早坂理事記)

(↑)Col. Jobe flied F-2B, piloted by 3rd SQ commander, on 22 Jun.
(↓)Maj. Gen. Samejima flied F-16 in the back seat of Col. Jobe on 2 Jul.

Photos from Misawa AB HP

在日米軍司令官マルチネス中将が那覇救難隊に勲章授与
USFJ Commander presents medals to Kouku-Jieitai rescue crew

Photo from Kadena & Naha AB HP

(←)Lt. Gen. Martinez, Commander of USFJ and 5th Air Force, visited Naha AB to hold an award ceremony and presented Naha Rescue crews with USAF medals for their life-saving actions. Three awardees out of nine attended (↑)Commemorative photo to remember the commendation ceremony on 15 Oct.

10 月 15 日(月)、在日米軍司令官マルチネス中将(Lt. Gen. Jerry P. Martinez)が、那覇救難隊を訪れ、6 月 11 日(月)に発生した米軍機墜落事故における米軍パイロット救助に対し直接謝意を伝えられるとともに、実際に救助にあたった U-125A 搭乗員(機長・高橋克典 3 等空佐(Maj. Katsunori Takahasi)以下 4 名)、UH-60J 搭乗員(機長・蓬澤崇守 1 等空尉(Capt. Takamori Yomogisawa)以下 5 名)に対して、表彰状と空軍功績勲章を授与された。表彰式当日は、9 名の被表彰者のうち 6 名が出張等により不在であったため、3 名のみがマルチネス中将から直接表彰を受けた。表彰式には、米軍からはマルチネス中将のほか、第 18 航空団司令官カニングハム准将(Brig. Gen. Case A. Cunningham)、在日米軍広報部長ハチソン大佐、第 18 航空団広報局長ストラボロー中佐、在日米軍グリーン最先任上級曹長(CMSgt. Terrence A. Greene)、第 18 航空団ディトーリ最先任上級曹長(CMSgt. Michael R. Ditore)が、航空自衛隊からは、南西航空方面隊司令官上ノ谷寛空将(Lt. Gen. Hiroshi Kaminotani)、同副司令官谷嶋正仁空将補(Maj. Gen. Masahito Yajima)、那覇基地司令稲月秀正空将補(Maj. Gen. Hidetada Inatsuki)、南西航空警戒管制団司令横尾広空将補(Maj. Gen. Hiroshi Yokoo)が出席された。マルチネス中将からは「米軍操縦士の人命を救ったことに対する最大限の感謝の意を表したい。そして、この救助は、日米同盟の強固さを表すものであった」とのお言葉を頂いた。

11 月 15 日(木)、カニングハム准将が那覇救難隊を再び訪れ、10 月 15 日に表彰を受けられなかった 6 名の搭乗員のために表彰伝達式が行われた。

6 月 11 日の米軍パイロット救助に関して、米軍として感謝の意を伝えるため、救助 2 日後の 6 月 13 日に第 18 運用群第 44 戦闘中隊長レジスター中佐(Lt. Col. Nicholas H. Register)以下 4 名が、次に 6 月 26 日に第 18 運用群司令官ロウ大佐(Col. Scott Rowe, the 18th Operations Group Commander)以下 4 名が、那覇救難隊を訪れていた。更に 12 月 11 日には、事故機パイロット自らが来隊する予定である(原稿は11月寄稿)。

今回の任務は、救難隊としては、1 秒でも早く人命を救助するという日頃の訓練の成果が発揮されたものであったが、米軍からの度重なる丁重な謝意に、人命の尊さはもとより、日米同盟の緊密さをより実感させられた任務となった。

(那覇救難隊の寄稿から池田理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

DEPARTMENT OF THE AIR FORCE

THIS IS TO CERTIFY THAT

THE AIR FORCE ACHIEVEMENT MEDAL

HAS BEEN AWARDED TO

CAPTAIN TAKAMORI YOMOGEAWA

FOR

OUTSTANDING ACHIEVEMENT

11 JUNE 2018

ACCOMPLISHMENTS

GIVEN UNDER MY HAND

14 OCTOBER 2018

(←)The Air Force Achivement Medal (→)Brig. Gen. Cunningham, Commander of the 18th Wing, visited Naha Rescue SQ. on 15 Nov. to hold a subsidiary award ceremony for the remaining six crews

(↑) **9 decoration awardees with Brig. Gen Cunningham**
(From right) TSgt. Ichimaru Akai, MSgt. Keita Imanishi, TSgt. Mitsunori Miyaoka, 2nd Lt. Noriaki Iseki, Capt. Takamori Yomogisawa, Brig. Gen. Cunningham, Maj. Katsunori Takahashi, Capt. Tomohito Sezaki, TSgt. Takeshi Sadakuma, SSgt. Nakachika Nishida

日米相互特技訓練を激励支援
JAAGA cheers Japan-U.S. Bilateral Exchange Program

6 月 14 日(木)、日米相互特技訓練(Japan-U.S. Bilateral Exchange Program、略して「BEP」という。)を激励するため、石野理事長、小野理事及び福永理事が航空幕僚監部人事教育部長鈴木康彦空将補を表敬訪問した。

表敬において、人事教育部教育課長藤永国博 1 等空佐、航空自衛隊准曹士先任横田雅宏准空尉及び教育課個人訓練班西ひとみ 1 等空曹が立ち会い、石野理事長から鈴木部長へ激励品の目録を贈呈し、20 分程度懇談を行った。

懇談において、鈴木部長から「日米相互特技訓練は、日米訓練担当者が良く連携して取り組んでいて、文化交流を含め現場レベルの相互理解を深めるなどの成果がでている。また、訓練の認知度が向上し、参加希望者が飛躍的に増加している。JAAGA のご支援に感謝している」と本訓練への評価及び JAAGA への謝辞が述べられた。

石野理事長からは本表敬訪問に先立つ 5 月 30 日に米空軍横田基地に第 5 空軍副司令官ジェフリー C. ボザード准将を表敬した際に、米側からも「このプログラムには多数の米空軍下士官からの参加希望者があり、日米下士官相互に多くのことを学び理解を深める上でとても重要な役割を果たしている」との所見があったことを紹介し、「JAAGA は、今後も日米の相互理解と連携の強化につながる現場レベルの交流に微力ながら支援していければと思う」と述べた。

JAAGA Chairman Ishino, Director Ono and Fukunaga call on Maj. Gen. Suzuki, Director General, Personnel and Education Department, ASO, to support the Bilateral Exchange Program (BEP) on 14 Jun.

なお、昨年度まで本訓練を担当してきた空幕教育課個人訓練班上治忠善准空尉(現在、空自幹部学校准曹士先任)の後を継いで、今年度から西ひとみ 1 等空曹が本訓練を担当している。 (福永理事記)

MSgt. Hitomi Nishi, responsible for BEP, Education Div., ASO

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

日米相互特技訓練の進展
Continuing progress of Japan-U.S. Bilateral Exchange Program

平成30年度日米相互特技訓練は、航空自衛隊部隊へ米軍下士官を受け入れての訓練及び米空軍部隊へ隊員を差し出しての訓練がそれぞれ 4 回計画され、予定通り進捗している。

訓練は、浜松基地(7 月 24 日～ 31 日)、高良台分屯基地(10 月 9 日～ 16 日)及び山田分屯基地(10 月 17 日～ 26 日)に米軍横田基地、嘉手納基地及び三沢基地から米空軍下士官を受け入れて各部隊の計画により実施された。また、米軍三沢基地(7 月 11 日～ 20 日、9 月 18 日～ 27 日)に延べ 15 名及び横田基地(9 月 5 日～ 14 日)に 14 名の空自隊員が赴き米側計画の訓練に参加した。

空幕教育課のご高配により、高良台分屯基地及び山田分屯基地での訓練について、それぞれ部隊先任から寄稿いただいています。また、米軍三沢基地及び横田基地での訓練参加者から訓練風景の写真をいただきましたので以下に紹介します。

(福永理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

平成30度日米相互特技訓練スケジュール

(空幕教育課提供)

空自受入基地 (trainig base)	期 間 (period)	参加人員 (participants)	空自差出基地 (training base)	期 間 (period)	参加人員 (participants)
浜松基地 (Hamamatsu AB)	2018. July 24 ～July 31	6 (Yokota USAF)	米軍三沢基地 (Misawa AB)	2018. July 11 ～July 20	8 (JASDF)
高良台分屯基地 (Koradai Sub AB)	2018. Oct. 9 ～Oct. 16	6 (Kadena USAF)	米軍横田基地 (Yokota AB)	2018. Sep. 5 ～Sep. 14	14 (JASDF)
山田分屯基地 (Yamada Sub AB)	2018. Oct. 17 ～Oct26	10 (Misawa USAF)	米軍三沢基地 (Misawa AB)	2018. Sep. 18 ～Sep. 27	7 (JASDF)
防府北基地 (Hofu-kita AB)	2019. Feb. 18 ～Feb. 27	5 (Yokota USAF)	米軍嘉手納基地 (Kadena AB)	2018. Nov. 20 ～Nov. 29	15 (JASDF)

米空軍下士官の空自基地受け入れ

高良台分屯基地
(Koradai Sub Base)
第2高射群第8高射隊准曹士先任
准空尉　永石敏裕
Training Impressions

10月9日(火)から10月16日(火)の間、高良台分屯基地第2高射群第8高射隊(隊長兵藤浩太郎2等空佐)において日米相互特技訓練(在日米空軍第18戦闘航空団(嘉手納))が実施されました。

高良台分屯基地における本訓練の受け入れは、第8高射隊長の指導の下、8高隊全隊員で受け入れを実施しました。ただし、我が隊において在日米空軍の受け入れを行うのは初めてのことだったので、不安と緊張の中での訓練受け入れでした。

訓練初日は、米空軍訓練者の到着を8高隊隊員で出迎え、隊長表敬、記念撮影、在日米空軍への導入教育(8高隊概要説明及び基地内生活説明)、日米相互の自己紹介及び隊終礼で8高隊隊員への紹介を行いました。そして夜は、アイスブレーカー(懇親会)を実施し、開始当初は日米相互が不安で緊張し堅い表情でしたが、次第に双方とも打ち解けて和やかな雰囲気を醸しだしていました。

2日目は、8高隊の各小隊等を実地に研修し、午後からは特技毎の訓練を行いました。

3日目は、引き続き特技毎の訓練を行い、日米の装備品、装具及び業務の進め方等を肌で感じることができ、今後、日米共同任務を行う上で良い機会となりました。また、課業時間外においては、高良大社観月祭に赴き、日本の伝統文化である箏曲や琵琶の調べに耳を傾け深く感銘を受けているようでした。

4日目は、8高隊の主要装備品であるペトリオットの訓練を見学し、午後は春日基地において西部防空管制群及び西部航空音楽隊を研修しました。

5日目(休日)は、久留米駐屯地創設記念行事、八女伝統工芸館及び酒造所等を巡り、特に酒造所は、初めて見る日本酒の酒造りの工程を見学し好評のようでした。

6日目(休日)は、芦屋基地航空祭研修及び高良台分屯基地准曹会による鍋パーティーにて鍋料理に舌鼓をうち、とても満足そうでした。

7日目は、基本教練を実施し日米の教練の違いを知ることができました。また、課業時間外にフェアウェル・パーティーでギフト交換等を行い、在日米空軍訓練者から「高良台に来て良かった」「高良台は家族だ」「こんなに濃密で有意義な研修は初めてだ」等の感想をいただき、受け入れ部隊として本当に光栄でした。

訓練最終日は、意見交換、隊朝礼及び見送りを行い、当分屯基地を後にしました。米空軍訓練者の中には涙を流しながら我々に手を振る者も見受けられ、感動の別れとなりました。

この度の日米相互特技訓練の受け入れは、日米の相互理解と絆を深くし、訓練当初は不安そうな面持ちであった受入要員も、在日米空軍訓練者と毎日一緒に行動することで、英会話は相変わらずの片言でしたが、日に日にコミュニケーションがとれて笑顔が多く見られるようになり、英語能力を向上させる上で動機付けとなり、隊員にとって良い経験となり、また、自信につながったと感じられました。また、日米の違いが分かったと同時に共通のものを見つけることができ大変有意義なものとなりました。

最後に、8高隊が今回受け入れを行うにあたり、日米エアフォース友好協会会員の皆様方の格別な支援を賜り、無事に終了することができましたことをご報告するとともに、厚く御礼を申し上げます。(了)

Scenes of BEP at Koradai Sub Base
Six USAF soldiers experience each respective speciality training like supply, fire fighting, vehicle maintenance, electricity, and fully enjoy BEP with JASDF members

米空軍下士官の空自基地受け入れ

山田分屯基地
(Yamada Sub Base)
第37警戒隊准曹士先任兼准曹会会長
准空尉　新家宏身
Training Impressions

北警団第 37 警戒隊は、10 月 17 日から26 日まで、山田分屯基地で「日米相互特技訓練」を実施しました。訓練指揮官　神村 2 尉の指揮のもと、全般計画からアシスタント（対番係）業務、総務全般、空幕や関係部隊及び機関との調整等を手分けしながら準備を進めてまいりました。米空軍受入れは、当部隊も私も初めてで不安でありました。北警団司令坂梨弘昭空将補が初度視察（日米相互特技訓練の進捗状況確認兼ねる。）で来基され、「気合い」を注入し、山田分屯基地司令佐伯太一 2 佐からは、「全隊員が必ず挨拶を交わすこと」を掲げられ、隊員一丸となり受入れに臨みました。

訓練初日は、山田分屯基地に第 35 戦闘航空団最先任チーフ・アルズビグ上級曹長以下 10 名がバスで到着し、バスが見えた瞬間に、対番空士から「あー緊張する」の声が漏れ、その一声で周りに居た対番隊員も緊張がほぐれたようでした。米空軍一行が山田分屯基地司令を表敬し、写真撮影をした後、対番者及び米空軍下士官の自己紹介を実施し、導入教育を行いました。課業後は基地クラブ「もっきり蔵」において懇親会を行い、早くコミュニケーションを取れるよう日米対番ペアー毎にスピーチをして頂きました。また、米空軍側の写真付プロフィールを配布したことで会話が弾みました。

翌日以降は、日本の文化、日本及び空自の概要・歴史等を対番空士が英語で説明を実施しました。また、各小隊において米空軍の特技に合わせた職場体験を実施し、意見を交換することで日米の相互理解を深め、双方の特技能力向上に繋げることができました。当分屯基地にはない特技参加者がいましたが、「日米相互に色々な特技の話を聞けて良かった」と言ってくれました。

課業時間外はフットサルやバスケ等で汗を流し、歓迎会、岩手県内の観光、震災遺構巡り、バーベキューなどを実施し、その都度数多くの隊員が米空軍との交流を図り意気投合している姿が見られました。今回英語の苦手な隊員で対番に選ばれた者は、部隊での勉強会のほか、5 術校の英語課程への入校や現地訓練に参加し英語能力を高める等、各人が自信をつけ、堂々と米空軍とのコミュニケーションを図っており、その姿を見て誇らしく思いました。

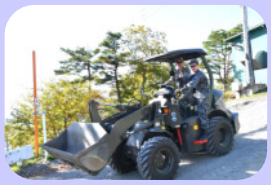
課題研究で、「今後の日米同盟の発展に貢献するために下士官に求められる能力とは？」という議題を提起したところ、各グループともコミュニケーション能力の向上が最も重要であるという結論になり空自及び米空軍共に今回の訓練を通して身に付けた能力や技量は、非常に有効であることを理解しました。サヨナラパーティーでは、余興で通信班長の居合道の型を披露し、クラブの「もっきり蔵」からは、サプライズケーキを振舞っていただき、米空軍 2 名（10 月生）とも「こんな事初めて」と言って喜んでいました。

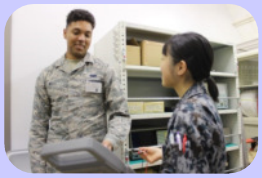
なお、最終日には、日米相互による成果発表と所感及び意見交換を実施しました。日米共に「特技訓練をやってよかった。また、やりたい」と答えていました。米空軍参加者からは「色々な特技や職場を見学し、会話もしたかった」と言われました。対番要員の特技だけではなくその他の特技の職場見学を設け、その際に質疑応答等を実施するように計画すればよかったと少し後悔しました。空自対番者からは「米空軍のスキルが高い位置にあると認識した」と言っていました。日米の相互理解深化及び日米同盟の基盤強化のため、今後も更に充実した日米相互特技訓練の継続が重要であると認識しました。

後日、チーフ・アルズビグ上級曹長から「山田分屯基地の対応に非常に満足している。日米相互にとって良い訓練であった。今後、受入れの際の参考とする」というお言葉を頂き嬉しく思いました。

この訓練を山田分屯基地で開催できたことに改めて感謝します。日米の相互理解及び絆を深め、部隊の特技能力及び英語能力の向上を図る良い機会でありました。この訓練に参加した隊員にとって、素晴らしい人生の一幕となったと思っております。この訓練で、参加者は言葉の壁があっても交流ができることを学んだと確信しました。言葉は手段であり重要ではありますが、それよりも歴史や文化という背景を知ることが重要であり、それは相手を尊重することであることを学びました。この経験を活かし、部隊から巣立っても空自内での後輩育成に尽力し、また、他自衛隊や諸外国との統合運用のような重要な任務に携われる隊員に成長することを願います。

最後に、この日米相互特技訓練を支援して頂いている日米エアフォース友好協会の皆様には心より感謝を申し上げます。また、この訓練が大成功に終了したことを報告いたします。有難うございました。（了）

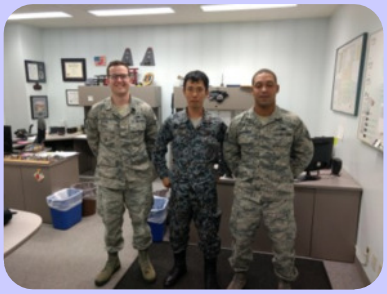




Scenes of BEP at Yamada Sub Base
Ten USAF soldiers participate in training of each respective specialty, such as civil engineering, photograph, network and mental health etc. at shops, and play or fully enjoy folk arts & sports

米軍基地における日米相互特技訓練

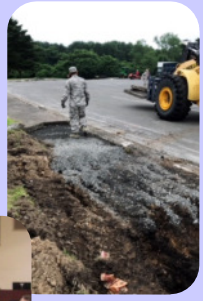
米軍横田基地 （Yokota AB, USAF）



Scenes of BEP at Yokota AB (USAF) in 9/5-9/14
14 JASDF members of the various specialties participate in from bases of Koku-Jieitai and experience or enjoy many things with USAF partners

米軍三沢基地 （Misawa AB, USAF）

Scenes of BEP at Misawa AB (USAF) in 7/11 - 7/20
8 Koku-Jieitai members from bases of Northern Air Defense Force participate and experience various specialties



第37警戒隊（山田分屯基地）で行なわれた日米相互特技訓練に参加した三沢基地所属兵士の所感が基地に届けられたので紹介する。　（山田分屯基地HPから抜粋）

Senior Airman
Sadie Colbert
Misawa Air Base, USAF

I am very impressed by Yamada Sub Base and its mission.
Everyone is very organized,proffesional,and excellent at their specific career tasks.
I learnd about the 37th Suveillance SQ's specific mission,and I understand deep value and impact of the mission here,especially how it provides a major advantage in bilateral, trilateral and multilateral missions.
I am grateful to Yamada sub Base Airman for the experience here and I belive it is integral for U.S.and Japan service members to understand each others strengths, which deepens our bonds and allows everone to fluidly execute the big picture mission (to protect and defend Japan and keep balance in the Indo-Pacific theatre).

日米施設部隊による共同訓練（那覇基地）
Bilateral Civil Engineering Training at Naha AB

8 月 27 日から 29 日の間、第 9 航空団基地業務群施設隊、南西航空施設隊及び米空軍嘉手納基地施設部隊等は、日米共同滑走路被害復旧訓練を那覇基地で実施した。また 30 日及び 31 日には機動バリア展開、海水淡水化装置の共同訓練も実施した。この日米施設部隊の共同訓練は、今年から始まり、今後も日米相互の基地において実施される予定である。
（那覇基地 HP 参照、早坂理事記）

Members of Koku-Jieitai and U.S. Air Force Airmen participate in Bilateral C.E. Training from 27 to 31 Aug. at Naha Air Base

Photos from Naha AB HP

特別寄稿(Special Contribution)
統幕最先任荻野浩幸准空尉
W.O. Hiroyuki Ogino,
Senior Enlisted
Advisor to the Chief of Staff,JSO

日米下士官防衛交流の進展（硫黄島）
Progress of defense exchange between Japan and US among NCO

In front of " Reuion of Honor " monument in Iwo To,
Jieitai and U.S. soldiers promise together to build stronger Japan-U.S. alliance

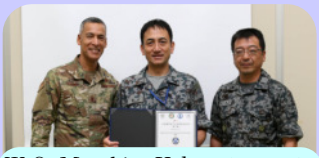
10 月 24 日(水)から 26 日(金)までの 3 日間、統幕最先任主催による日米最先任下士官等会同が行われた。本会同は今年で 8 回目であり、初めて海上自衛隊硫黄島航空基地にて開催した。

会同は「日米下士官の相互運用性向上のため、自衛隊及び米軍の現況を情報共有するとともに意見交換を行い、日米相互理解の深化及び信頼性の醸成を図る」を目的とし、統幕最先任荻野准空尉を始めとする陸海空自衛隊最先任上級曹長等 17 名、在日米軍最先任上級曹長グリーン最上級曹長を始めとする在日米陸海空海兵隊最先任上級曹長等 11 名の 28 名が参加した。

意見交換・グループ討議は自衛隊、在日米軍に分かれて実施し、理想とする下士官の育成・下士官交流を実現するため、何ができるかをテーマに活発に議論が交わされ、相互理解の深化や陸海空の更なる連携に向けた前向きな意見が出ていた。

荻野統幕最先任からは「今回参加した日米最先任下士官の一人一人が過去を見つめ、現在を活かし、未来に向けて何を繋げていくかを全員が感じとったと思っている。今回の会同は我々にとって小さな一歩かもしれないが、未来に向けての確実な一歩になる。本会同は、最先任下士官等だけでは実現不可能であったが、最先任上級曹長等制度の意義を日米各司令官及び関係幕僚等が理解されて実現できたことは、今後更なる制度の活性化及び理解促進にもつながるものであると思っている」とあり、日米会同参加者の多くの賛同を得ていた。

期間中、最先任下士官等の交流と意見交換を通じて統合運用の在り方やその重要性を認識し、日本と米国の強固な同盟力を改めて確認することができ、意義深い日米最先任下士官等会同となった。（統幕最先任荻野准空尉記）



W.O. Masahiro Yokota(center), Senior Enlisted Advisor, JASDF has a Certificate of completion, published for the participants

(→)A scene of discussion for the deepening of Japan and U. S. mutual understanding and the further cooperation among Army, Navy and Air Force

Photos provided by Yuichi Imada
U.S.Army Garrison Japan

米軍人の「ねぶた祭り 2018」参加支援
JAAGA supports participants from Misawa Air and Naval Base into Nebuta Festival

8 月 4 日(土)、JAAGA は米軍三沢基地所属軍人に対し、青森ねぶた祭り参加支援を行った。参加者は、第 35 戦闘航空団司令官 Col. Kristopher Struve 御家族 4 名、第 35 戦闘航空団最先任上級曹長 CCMSgt. John Alsvig 御家族 5 名、第 35 医療群司令官 Col. Terrenc Cunningham 御家族 5 名、米海軍三沢航空基地隊司令官 Capt. Brian Pummill 御家族 4 名、米海軍第 72 作戦哨戒隊副司令官 Capt. Jason Canfield 御家族 4 名、第 35 戦闘航空団司令部の長谷川様及び広報官戸館様そして JAAGA 山本三沢支部事務局長夫妻であった。

今回の出発に際しては、車両と天候の心配があった。当初、米空軍から大型バスではなく小型車両(13 名乗り)の支援が可能である旨連絡があったが、小型車両では参加希望者全員が乗車することができないので一部参加者の辞退等も検討された。その後、おいらせ町の寺下運輸倉庫(株)に調整したところマイクロバス(27 名乗り)の支援が可能である旨連絡をいただき、当初の計画どおり 26 名で出発できるようになり安堵した。次に天候の心配である。昨日までは快晴であったが、木曜日の予報から「土曜日の夕方から雨模様の予報」が出るようになり、何百人の中で跳ねると体温等の上昇が懸念されるので、事前の準備として熱中症対策として十分な量の飲料水、雨具としてポンチョ、夕食として軽食のピザ・クッキーを準備し万全を期した。

当日は、15 時に三沢基地を出発し、車中において夕食(軽食)を摂った。17 時半頃には青森市に到着し、すでに用意されていた衣装に着替えて、ねぶた会場へ移動し、ねぶた祭り開始の合図を待った。また、出発前に全員にポンチョを配布したが、半数がバスに置き忘れて行ってしまった。19 時 10 分、定刻通り花火の合図とともにねぶた祭りが開始された。ハネトの集団は、すぐに一体となり盛り上がっていた。20 時頃には、天気予報が的中し雨が本降りとなってしまったが、雨にもかかわらず、21 時のねぶた終了まで参加者全員がハネトの熱気に染まり、大いにねぶた祭りを満喫した様子であった。ねぶた祭り後、参加者の衣装は、雨と汗でグッショリ濡れていたため、急いで身体の手入れを行い、着替えをした。間もなく出発準備が完了し、すぐにバスで乗車し帰路についた。

バスの中では祭りの話で盛り上がったのも束の間、軽食を摂った後には静かにお休み状態が続き、23 時 30 分頃、無事に基地に到着した。

今年も、怪我や紛失物もなく、雨でずぶ濡れになり健康面が心配されたが、月曜日には全員風邪も引かず出勤したとの連絡があった。　　(山本三沢支部事務局長記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

Military personnel and their families, belonging to Misawa Air and Naval Base, take part in “Nebuta Festival”
21 participants enjoy Nebuta dance as “Haneto” during festival, and have a good time with beautiful smiles

スペシャルオリンピックス支援
JAAGA supports Special Olympics in Misawa and Yokota AB

米軍三沢基地 (Misawa AB, USAF)

第32回三沢基地スペシャルオリンピックスが10月6日(土)、ハンガー911において行なわれた。

青森・岩手から招待されたアスリート、ストルーヴ大佐(Col.Struve)以下三沢基地所在の米軍ボランティア、鮫島3空団司令以下空自ボランティア、市民のボランティア、そしてスペシャルゲストとしてロンドンオリンピック金メダリストの米満選手を迎え、総勢約500名が参加して賑やかに行われた。

当日は、台風25号接近の悪天候であったが、聖火点灯、日米国歌斉唱、ストルーヴ大佐の開会宣言で競技を開始し、参加者一同バスケットボール、サッカー、フラフープ等の競技を楽しんでいた。

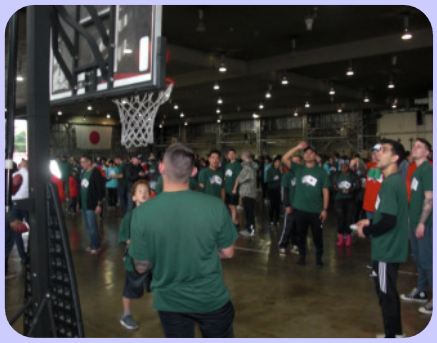
JAAGAからは丸山支部長と山本事務局長が参加し、ストルーヴ大佐にJAAGAからの寄付を手交した。ストルーヴ大佐からJAAGAの活動に感謝の言葉があった。

(丸山三沢支部長記)

Photos from Misawa AB HP

(↑)Col. Struve, Commander of Misawa AB is given a donation by Mr. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch. Maj. Gen. Samejima, Commander of 3rd AW, presents

About 500 people (athletes and their families, more than 200 volunteers including Koku-Jieitai members and Misawa citizens) take part in the 32nd Special Olympics at Misawa AB on 6 Oct.



米軍横田基地 (Yokota AB, USAF)

米軍横田基地におけるスペシャルオリンピックスは、1980年に横田基地下士官協会の有志が中心となって始まった。その後、1984年からは地元の地域の障害者支援学校などを招待して「関東地区スペシャルオリンピックス」として開催され、現在に至っている。JAAGAは今年で第39回を迎える本大会の趣旨に賛同し、今年も支援を行った。

5月19日(土)、直前まで降雨が心配されたが、開会式直前までには天候も回復し、絶好のイベント日和の中、米軍横田基地DODチームを含む全10チーム、参加選手125名がそれぞれのフィールドの競技に汗を流した。

開会式の挨拶に立った第374空輸航空団副司令官セルジオ・ベガ大佐(Col. Sergio J. Vega Jr., Vice Commander of the 374 Airlift Wing)は、選手の競技の健闘をたたえるとともに、地元地域との友好関係を築いていくことの大切さや、本大会を支える陸海空自衛隊准曹士隊員をはじめとする多くのボランティアに対する感謝の気持ちを述べられた。開会式にはJAAGAから石野理事長、阪東理事、

Mr. Isino, Chairman of JAAGA, Col. Vega, VC of 374 ALW, and Mr. Bando, Director of JAAGA

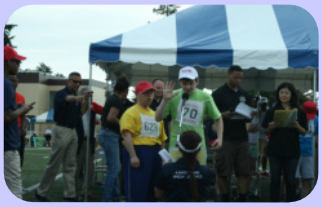
村田理事及び藤田理事が参加した。

日米国旗の入場を先頭に各チームが入場行進、スタンドに詰めかけた各部隊の幟(のぼり)を掲げたボランティア達が割れんばかりの拍手で選手を出迎え、選手と大会役員、そしてボランティアが一体となり、フィールドでの陸上競技、水泳、バスケットボール及びボーリングの各競技が熱く繰り広げられた。

会場のバックヤードでは陸海空自衛隊准曹士隊員と米軍下士官が協力しながら、笑顔で昼食のハンバーガーやホットドックを準備する姿がとても印象的であった。年を追うごとに本大会を通じた日米隊員の交流が活発となっているが、その姿は正に日米共同の進展を物語っていると感じた。来年は記念すべき第 40 回大会である。JAAGAとして、ボランティアなどの人的支援を含め更なる支援の大切さを感じながら会場を後にした。　(藤田渉外理事記)

※　※　※　※　※　※　※　※　※

Photos from Yokota AB HP



The 39th annual Kanto Plains Special Olympics is held at Yokota AB on 19 May
Thanks ! So many volunteers from Jieitai (= Self Defense Force) and others

(↑)W.O. Tomohiro Tanaka, Senior Enlisted Advisor & CCMSgt. Elvin L. Young, Jr., Yokota AB
(↓)Paseri-Chan and Pikurusu-Oji, mascot character of MOD cheer Special Olympics in Koku-Jieitai uniform

平成30年度JAAGA横田基地研修
JAAGA Members' Visit to Yokota AB on 3 Oct

10 月 3 日、JAAGA 会員による横田基地研修が行われた。研修団は、福江広明 正会員を団長とし、髙橋雅之 法人賛助会員（(株)シー・キューブド・アイ・システムズ）を副団長として、正会員 8 名、個人賛助会員 8 名、法人賛助会員 14 名及び同行理事 5 名の合計 35 名となった。当日は、台風接近による悪天予想もあったが、秋の穏やかな晴れ日となり、絶好の研修日和となった。結団式において、福江団長からは、米軍の研修を通じて、米軍に関してより深く理解して欲しいということと、とにかく楽しんで欲しいとの思いが伝えられた。

まず研修団は、第 5 空軍司令部を訪問し、福江団長、髙橋副団長、小野理事及び池田理事が在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官マルチネス中将（Lt. Gen. Jerry P. Martinez）を表敬訪問した。マルチネス司令官は、訪問した 4 名を大歓迎し、お茶会で持て成した。福江団長から、JAAGA 研修団の受入れに対する謝意が述べられると司令官からは、JAAGA に対する敬意と深い親しみの意が伝えられ、終始和やかな雰囲気の中でお互いの親睦が図られ、最後には司令官から充実した研修になることを祈るとのお言葉をいただいた。その後、第 5 空軍会議室に研修団全員が入り、『第 5 空軍の任務の概要』のブリーフィングを受けた。ブリーフィングに先立って司令官から「皆様、よく来ていただきました。JAAGA については、歴代司令官等からしっかり付き合うように厳命されてもいますし、JAAGA の日米交流における評判はとても良いので、是非色々見ながら質問して、日米の状況を理解していってください」とのスピーチをいただいた。ブリーフィングは、日本語で行われたことと、資料が分かりやすく図解され、写真も多用されていたので、研修団各員は、第 5 空軍の任務が良く理解できた。笹尾昭 正会員から、韓半島からの邦人救出に関する質問が、市野耕人正会員からは、先の米朝首脳会談時における米軍の態勢等に関する質問が出たが、いずれの質問にも第 5 空軍副司令官ドージャー准将（Brig. Gen. Todd A Dozier）から丁寧な回答を頂き、また、福江団長からの補足説明もあって、第 5 空軍が諸々の対処に常に磐石な態勢にあることが理解できた。

Col. Jones, 374th AW Commander welcomes JAAGA members

続いて、第 374 空輸航空団研修に移行し、C-130J の研修を実施した。C-130J は、C-130H の改良型で、よりパワフルに、より積載量が多く、より高高度を飛ぶことができるようになり、横田基地の C-130H と昨年の 3 月から逐次入れ替えてきたとの説明を受けた。また、印象に残ったのは、例年、クリスマスには、「Christmas Drop」という人道支援任務があり、南海の島国に缶詰や T シャツやぬいぐるみなどが入った箱を空中から大量に投下するとのことだった。通算 67 回目となった昨年は、ミクロネシア諸島上空において、25t もの物資を投下したそうである。この時は、航空自衛隊の C-130H もオーストラリア軍と共に参加して、共同で

Commemorative photo with Lt. Gen. Martinez, Brig. Gen. Dozier and JAAGA members

Courtesy call on Lt. Gen. Martinez, Commander of 5th Air Force

Lt. Gen. Martinez makes a short speech to JAAGA members

作戦を実施している。また、研修者から沢山の質問があって、ブリファーの大尉が大汗をかく場面もあったが、米国本土から横田に機体を持ってくるのに、1 日 12 時間飛んで 5 日間を要することや、当該機には電子レンジが積んであって空中での食事事情はとても快適であること等、様々な運用が分かって有意義だった。

JAAGA 主催の会食・懇談は、日米主要幹部 26 名を招待して実施された。まず、主催者側の代表として、福江団長から本研修の受入れに対しての謝辞が述べられ、JAAGA は、これからも日米両空軍が効果的に事態対処できるように全面的に支援していくことを誓い、「まさかの時の友は真の友」という共通認識を持つべきことを強調してスピーチを結んだ。

マルチネス司令官及び航空総隊司令官武藤茂樹空将からは、本研修に対する歓迎の言葉とJAAGA への敬意及び日頃の諸活動に対する謝辞が述べられた。会食間は、生演奏が流れていて、和やかな雰囲気で明るく懇談が行われ、横田基地の航空自衛隊と米空軍の関係が良好であることを研修団各員は感じ取ったようである。懇談の締めくくりに、ドージャー副司令官がスピーチを実施し、会食・懇談に対する謝辞と日米両空軍の連携には欠かせないとして JAAGA の諸支援への感謝の意が述べられた。研修に関しては、よく質問をして深く理解し、見たもの全てが日米にとって大切であることを周りの人に伝えて欲しい旨の要望がなされた。

会食後、短い時間ではあったが、福江団長、髙橋副団長及び第 374 空輸航空団司令官ジョーンズ大佐（Col. Otis C. Jones）の 3 名が、将校クラブの個室において懇談され、「Christmas Drop」作戦の持つ役割（人道支援及び抑止力等）やインド・太平洋地域の安定等に関して意見交換を行った。

JAAGA members study about C-130J and " X-mas Drop "

午後は、まず CV-22「オスプレイ」の研修から始まった。大きな格納庫の中央に駐機された機体について解説してもらいながら、機外から機内へと見学していった。皆、まずは全長約 17m、全幅約 26m というオスプレイの大きさに圧倒され、片方のエンジンが不調でもホバリングが実施可能であるということに大変驚いたが、操縦士からの豊富な飛行経験が必要であるという説明に、繊細で難しい飛行機なのだという印象を受けた。

(←) Brig. Gen. Dozier makes a thank-you speech

JAAGA hosts luncheon with Commander of 5th Air Force and Commander of Air Defense Command, as well as commanders and staffs of USAF and Koku-Jieitai

JAAGA tour members take a photo together with USAF and Koku-Jieitai commanders and staff members

航空総隊司令部研修においては、日本周辺の現状、航空総隊の任務、周辺国の動向、日米共同訓練、本年度事業（体制移行、AOC 整備）等についてブリーフィングがあり、その後、活発な質疑応答が行われた。司令部施設研修においては、日米調整所における実際の日米調整ミーティングの場面を見ることができ、綿密な調整が図られていると認識した。

航空総隊司令官講話においては、日米同盟を更に強化するために、新ガイドラインに基づいて、①有事以外の事項（情報収集、警戒監視、大規模災害対処等）も含めて、シームレスに協力していくこと、②グローバルな地域での協力及びサイバー・宇宙分野での協力をしていくことを、分かりやすく説明していただいた。

研修団全員は、本研修を通じて、日本周辺の安全保障環境がどのように変化しても、航空自衛隊と米空軍は、強い絆を持って対処力及び抑止力を強め、日米同盟を堅持していくとの認識を強くし、会食・懇談など様々な場面を通して、日米友好親善を図ることができたので、本研修目的は達成されたものと確信している。

ご支援いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

（池田理事記）

JAAGA members study about CV-22 “OSPREY”

Commemorative photo, with Air Defense Command Generals, Lt. Gen. Shigeki Muto, Commander, Lt. Gen. Shinichi Kaneko, Vice Commander, Maj. Gen. Kuniharu Kakihara, Chief of Staff, Maj. Gen. Koji Imaki, Director of Operations

ＳＰＯＲＴＥＸ’１８Ａを開催

SPORTEX'18A, a Japan-US friendship golf athletic meet, is held on 16 Nov.

11 月 16 日（金）、JAAGA ゴルフコンペ「SPORTEX’18A」が多摩ヒルズ・ゴルフコースにおいて開催された。当日は天候にも恵まれ、秋晴れの空の下に米空軍横田基地から第 5 空軍司令部 A-6 部長ワーダック大佐（Col. Randy Wardak）をはじめとして 17 名及び JAAGA から永岩顧問をはじめ個人・法人会員 44 名のプレーヤー並びに JAAGA から 1 名及び米空軍側から 2 名の運営ボランティアが参加した。メンバー、天候、ゴルフコース、クラブハウス、食事等素晴らしい環境に恵まれ、円滑な運営のもとにプレーを楽しみ、親睦を深めることが出来た。

夜明け前に集合し、受付を済ませた参加者はクラブハウスに準備された朝食をとり、プレー準備を整えて日の出とともに開会式に臨んだ。開会式では主催者 JAAGA を代表して杉山顧問、米第 5 空軍を代表してワーダック大佐からご挨拶をいただき、企画の上田理事から競技要領について説明の後、参加者全員で記念写真を撮影した。競技はショットガン・スタート方式でパーティごと各々のスタートホールから午前 7 時の合図で競技を開始した。競技は、18 ホール・スループレー、ダブル・ペリア方式で行われた。日米参加者は、終始和やかな親善ムードでゲームを楽しんだ。

18 ホールを終えてクラブハウスに戻ると、スタート前に比べ大いに打ち解けた様子で、パーティ毎にテーブルを囲み昼食をとりながら賑やかにゴルフ談義を楽しんでいた。

昼食後しばらく歓談の後、閉会式に進み、成績発表と表彰式が行われた。栄えある優勝は、アード中佐（Lt. Col. Bob Ard）、スコアは GRS:105、HDCP:36、NET:69 で JAAGA 齋藤顧問から賞品が贈られた。続いて 2 位、3 位、ニアピン、ドラコン及びラッキー賞（5 の倍数順位）にもそれぞれ賞品が贈られた。また、ベストグロス賞は、日本側の池田会員（GRS:79）に 5 空軍司令官賞、米空軍側のデリス氏（Mr. Chong Delise, GS14）（GRS:75）に JAAGA 会長賞が贈られた。

最後にプレゼンターを務めた齋藤顧問とワーダック大佐から、本 SPORTEX’18A が円滑に行われ、日米双方の親睦親善を深める機会になったことに対する謝意と開催に尽力された米軍関係者及び JAAGA 関係理事への慰労の言葉が述べられた。今後も友好と絆が一層深まることを祈念し、次回開催を期して終了した。　（福永理事記）

Mr. Sugiyama, Previous Chief of Staff, Koku-Jieitai（←）and Col. Wardak, Chief director of A-6 Div., 5AF（→）have opening remarks

Mr. Ueda, Director of JAAGA explains about rule etc.

After hot battle of SPORTEX'18A
All Players enjoy lunch and winners have smiling faces at commendation ceremony

三沢基地エアフォース・ボール2018
The 35th Fighter Wing, Misawa AB holds Air Force Ball on 29 Sep.

米空軍創立記念晩餐会が 9 月 29 日(土)午後 6 時 30 分から米軍三沢基地下士官クラブ内ボール・ルームにおいて開催された。

晩餐会には米軍基地司令官ストルーヴ大佐(Col. Kristopher W. Struve)以下在三沢米空軍関係者、北空司令官城殿空将(Lt. Gen. Tamotsu Kidono, Commander, Northern Air Defense Force)はじめとする在三沢基地空自関係者及び種市三沢市長他三沢市関係者が多数参加、米軍人はメスドレスで、民間人はフォーマル服装だった。JAAGA からは丸山三沢支部長及び山本事務局長が共に夫婦で参加した。

晩餐会は、国旗入場に続き国歌斉唱を行い、厳かに開始され、続いてゲストスピーチが行われた。最後はストルーヴ大佐の挨拶が行われ閉会した。今回のテーマは、「Airmen of the Air Force」ということで、ゲストスピーカーにはアフリカ大陸、アジア大陸及びアメリカ大陸からの移民である若い空軍兵士がそれぞれの生い立ちについてリアルな体験を発表するというものであり、とても意義深いものがあった。　　(丸山三沢支部長記)

Col. Struve (center) and Mr. & Mrs. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch

Photos from Misawa AB HP

Northern Air Defense Force Band performs an ensemble to support Air Force Ball at Misawa AB

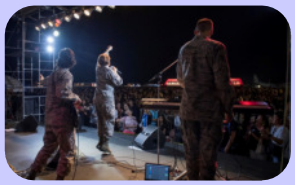
2018横田基地日米友好祭が開催
Yokota Air Base opens door for the 2018 Japanese-American Friendship Festival

2018 横田基地日米友好祭が、9 月 15 日（土）及び 16 日（日）の両日開催され、9 月 15 日（土）午後 1 時から祝賀レセプションが米軍下士官クラブで行われた。地元関係者とともに、空自から航空総隊司令官武藤空将、同副司令官金古空将、同幕僚長柿原空将補、同司令部防衛部長今城空将補、戦術教導団司令安藤空将補及び横田基地司令齋藤 1 等空佐の他、入間基地司令景浦空将補、府中基地司令阿部 1 等空佐及び美保基地司令北村 1 等空佐をはじめ多数の隊員が招待された。JAAGA から阪東及び村田理事夫妻並びに谷井、川口、藤田及び岩本各渉外理事と石川会員が出席した。約 1 時間半の懇談、食事等の間、ホストの米軍横田基地司令官ジョーンズ大佐（Col. Otis C. Jones, Commander of Yokota AB）は、各テーブルを積極的に挨拶して回り歓談を行い、レセプションの最後のスピーチで「皆さん、横田基地日米友好祭へようこそいらっしゃいました。横田基地は引き続き地域との共存共栄を図るとともに、日米同盟の堅い絆の発信地として努力して行く」と述べレセプションを結ばれました。この際、長めの英語スピーチを続けて述べられた後で、「通訳高橋女史の能力確認を行うために長く続けたのだが、彼女の能力は素晴らしいことが確認できた」と述べられ会場招待者からどっと笑いが上がり、新司令官の陽気でユーモアあふれる一面が見られた。

曇り気味の天候ながら、C-130J スーパーハキュリーズや RQ-4 グローバルホークをはじめ日米から多数の航空機が展示されるとともに、CV-22 オスプレイの展示飛行も行われ、多くの観客で賑わった友好祭となった。

（岩本理事記）

（↑）JAAGA members Mr. Bando, Mr. Tanii, Mr.Iwamoto and Mr. Kawaguchi With Col. Jones, Commander of Yokota AB



Photos from Yokota AB HP, USAF

特 集

米空軍将校航空自衛隊勤務だより
Present circumstances of " Officer Exchange Program between Koku-Jieitai and USAF "

【 飛行部門 】
新田原基地 飛行教育航空隊
(Fighter Training Group, Nyutabaru AB)
Lt. Col. Jeremy S. Mullen

皆さん、初めまして、私は新田原基地の飛行教育航空隊第 23 飛行隊で F-15 戦闘機の教官操縦士として勤務しているジェレミー･マレン中佐です。2016 年の夏から宮崎県に家族と共に住んでいます。

私が米空軍に入隊してからこれまでの道のりは、空軍アカデミーに入隊した 1999 年に始まり、卒業後、パイロットになるため、2004 年にジョージア州のムーディー空軍基地で T-6 基本操縦課程に入り、その後、アラバマ州のコロンバス空軍基地で T-38 基本操縦課程を修了しました。実は、T-38 基本操縦課程の間、日本人留学生が 2 人いて、彼らがとても楽しくて真面目な人だったということを思い出します。Undergraduate Pilot Training (UPT)という基本操縦課程が修了したところで、アメリカ人学生と日本人留学生の両方のパイロットが一緒にウィングマークを取得しました。そして、私は F-15E に機種転換を行い、ノースカロライナ州のシーモア･ジョンソン空軍基地で空対空戦闘と空対地戦闘の訓練を受け、自らのスキルを高めました。F-15E 戦闘機パイロットとしての最初の部隊はイギリスのレイクンヒース空軍基地でした。2006 年から 2009 年までの 3 年間、数多くの貴重な経験をしました。この間、アフガニスタンで約 600 時間実任務に従事し(不朽の自由作戦)、その後、交換将校としてブルガリア及びルーマニアで勤務をしました。また、働くだけではなく、ヨーロッパ 13 か国へ旅行することができました。

Instruction using F-15J airplane model

2009 年、シーモア･ジョンソン空軍基地へ戻って、5 年半の間 F-15E 教官として勤務をしました。その間の 1 年間で MC-12 の機種転換を行い、再びアフガニスタンでのミッションに参加し、約 1,250 時間、飛行しました。シーモア･ジョンソン空軍基地の勤務が終わりに近づく頃、次の勤務を希望したところ日本に決まりました。日本語や日本文化についてよく知らなかったので、日本語学校で 1 年半勉強をしました。日本語学校卒業後、私が操縦していた F-15E よりも F-15C のほうが日本の F-15J に飛行特性が近いという理由から、米国の F-15C の機種転換課程へ進みました。

Lt. Col. Jeremy S. Mullen

その後渡日し、第 23 飛行隊において F-15J(DJ)の機種転換操縦訓練を行いました。私にとって、言語、航空機、航空自衛隊等全てのことが新しかったため苦労しましたが、非常に専門的で勤勉な航空自衛隊の教官の助けもあり、教官としての資格を取得しました。そして現在に至る 2 年 3 か月、私は彼らと共に航空自衛隊の F-15 戦闘機操縦者の育成に取り組んでいます。

新田原基地の飛行教育航空隊第 23 飛行隊のミッションは、初めて F-15 戦闘機に乗る若い操縦者を約 10 か月の

After flight training with F-15 J

課程で育成し、日本の空を守るため 7 つの F-15 戦闘機部隊に送り出すことです。その第 23 飛行隊において私は F-15J(DJ)及びシミュレータで日本語と英語の両方を使いながら、基本手順から空対空戦闘まで教育をしています。教官として 400 時間を超える飛行訓練を航空自衛隊の操縦学生と共に実施しました。

また、勤務以外にも日本での思い出はたくさんあります。特に、妻と娘と一緒に経験した思い出です。日本に来た時、娘はわずか 6 か月でした。他に類を見ない日本という安全な国で生活をしながら、小さな赤ちゃんの子育てができたことに感謝しています。日本に住んでいる間、安心して、娘が大きくなるのを見守ることができました。さらに、多くの場所へ行き日本について知ることができました。娘はまだ小さいですが、私は娘が日本での生活を覚えているだろうと思います。私たちにとって、京都の紅葉、札幌の雪祭り、石垣島のビーチ、広島の原爆ドーム、その他すべての出来事が、一生に一度の忘れられない思い出です。そしてこれからも、日本における生活は私たち家族にとって忘れられない特別な時間となるでしょう。

今後ともよろしくお願いいたします。(了)

Base BBQ with family
"Carrie" and "Annie"

Nyutabaru Airshow
with daughter "Annie"

Sapporo Snow Festival
with family

Tokyo Disney Land with
daughter

作:富岡幹生会員

会　員　募　集

○今期は、関係各位のご努力で、新たに正会員 7 名、個人賛助会員 4 名の合計 11 名の入会を得ることができました。
○H30.11.30 現在、正会員数 261 名、個人賛助会員数 84 名、団体賛助会員数 2 団体及び法人賛助会員数 36 社となっております。
○今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。
なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。
推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させて頂きます。

【入会資格】
正　会　員：航空自衛隊のOB
賛 助 会 員：航空自衛隊のOB以外の方。正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】
郵　便　：　〒 160-0002
東京都新宿区四谷坂町9-7　ZEEKS 四谷坂町ビル3 F
日米エアフォース友好協会　会員係
メール　：　membership@jaaga.jp

新 入 会 員 紹 介

1　正会員（Regular Member）

氏　名	住　所	氏　名	住　所
相 原 弘 介	沖 縄 県 那 覇 市	吉 廣 敏 幸	東 京 都 江 東 区
真 船 洋 平	埼 玉 県 鶴 ヶ 島 市	迫 本 智 佳	埼 玉 県 所 沢 市
大 塚 博 通	神 奈 川 県 横 浜 市	渡 邊 博 史	埼 玉 県 所 沢 市
前 原 弘 昭	埼 玉 県 新 座 市		

2　個人賛助会員（Individual Associate Member）

氏　名	住　所	氏　名	住　所
川 眞 田 章 雄	愛 知 県 名 古 屋 市	大 宜 味 朝 雄	沖 縄 県 浦 添 市
大 宜 味 淳 子	沖 縄 県 浦 添 市	加 藤 美 重 子	東 京 都 杉 並 区

寄 稿 募 集 の 御 案 内

日米エアフォース友好協会（Japan-America Air Force Goodwill Association、略称「JAAGA」）は、お蔭様で平成 30 年 7 月に創立 22 周年を迎えました。
日米同盟の深化進展に伴い、日米両軍の絆はより強固なものに発展してまいりました。
『JAAGA だより』も、JAAGA 活動の広報と空自のサポーターとしての役割をより一層充実発展させていきたいと考えています。
ご愛読の皆様からの投稿は大歓迎です。また、皆様の忌憚のない意見や感想も是非お寄せいただきたくお待ちしています。

【連絡先】
（郵便）〒 160-0002　東京都新宿区四谷坂町 9 番 7 号　ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
日米エアフォース友好協会　広報係
（メール）pubaffair@jaaga.jp

【 現役隊員の皆様へ 】

『 JAAGA だより 』は航空自衛隊全部隊に配布しています。今号の発行部数は約 1,700 部、前号より約 100 部ほど多く増刷し、配布部数を増やしました。

配布の基準は、航空幕僚監部はもとより各級司令部の部課長、各級部隊指揮官等及び准曹士先任等を宛先にして、概ね 1~2 部づつを基準に配布しています。日米相互特技訓練などを担当した部隊等には、更に多くの部数を配布しています。また、JAAGA は、より多くの隊員、特に准曹士隊員の皆さんに読んでいただけるよう各基地准曹会宛てを加え、数部づつですが、従来より多くの部数をお届けすることになりました。

発行回数は 6 月下旬と 12 月下旬の年 2 回です。一人でも多くの隊員の皆さんに手に取って見て読んで楽しんでいただけるよう記事も工夫しています。まだまだ限られた部数ですが、出来るだけ多くの職場に回覧していただくことをお願いします。 （JAAGA 理事会）

【 編 集 後 記 】

◇ JAAGA だより 55 号をお届けします。元号「平成」最後の発行となりました。新元号の発表は、来年の 4 月 1 日以降になると聞いています。新元号が日本の平和と繁栄を願う国民に愛され慕われるものになることを祈念します。

◇ 北朝鮮の核問題や中国軍事力の増大など北東アジア情勢が一段と厳しさを増す中、我が国の安全保障の柱である日米同盟の進展は航空自衛隊の施策にも如実に表れています。特に日米共同訓練は陸海空各自衛隊は勿論、統合の世界においても著しいものがあります。そんな昨今の現状を感じていただく記事を積極的に掲載しました。

◇だより冒頭の「JAAGA 訪米団報告」には、JAAGA が米空軍と20年以上誠実に親交を培ってきた成果が記事の端々に感じられます。また、日米双方の高官相互の交流に平行し、下士官相互の交流も年々盛んになっています。日米相互特技訓練は 20 年以上の歴史がありますが、年々その規模や訓練受け入れ部隊等が多様化しており、参加隊員の所感等を見るにその充実発展振りを感じざるを得ません。

作：宇山佳男 OB

◇同様に、統幕最先任荻野准空尉の投稿記事「日米下士官防衛交流の進展（硫黄島）」や「三沢基地における日米両航空団司令の相互体験搭乗」などは日米共同の進展ぶりを感じていただける記事だと思います。

◇ 在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官マルチネス中将が米空軍 F-15 パイロットの救助に当たった那覇救難隊関係隊員全員に対し空軍功労賞を授与する様子を掲載しました。JAAGA ではこのように航空自衛隊と米空軍間の相互信頼と絆の強化に焦点を当てた事業や事実を今後ともつぶさに追っていく所存です。

◇空自に派遣されている米空軍将校の寄稿記事タイトルを「米空軍将校航空自衛隊勤務だより」に変更しました。概ね 3 年間の長期にわたる空自隊員の教育を担当する部署での活躍や日本での生活振りを紹介して頂いています。

◇今号の挿絵は、宇山佳男 OB と富岡幹生会員にお願いしました。どうぞお楽しみください。

◇『 JAAGA だより 』は、JAAGA ホームページ（http://www.jaaga.jp/）からもご覧頂けます。バックナンバーもすべて掲載しています。

◇ 広報理事を中心とする JAAGA だより編集員一同、今後も JAAGA の活動を中心に地道に発信していきたいと思いますので、会員及び現役の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。 （編集子）